

平成24年度事務事業評価シート（23年度実施事業分）

事業番号	08 04 12	中期総合計画主要施策番号	2-03	担当課	部・課	農政部 園芸畜産課	
事業名	凍結精液生産事業			内線	3174		
				E-mail	enchiku@pref.nagano.lg.jp		
実施期間	S50 ~	根拠法令等	家畜改良増殖法、家畜改良増殖目標				
実施方法	県が直接実施（畜産試験場）					国庫・県単	県単独事業

  

事業の概要等	目的（必要性）	信州の風土に合った特徴ある畜産物の生産とブランド化に向けて、こだわりのある生産形態への取組みを推進し、おいしさ等に優れた特色のある信州産の種畜やその精液を供給し、高品質で市場性の高い信州ブランドの畜産物生産を推進する。					
	対象	県内肉用牛農家、養豚農家					
	目指すべき姿	県有種雄牛「栄寿」の精液を利用した肉用牛生産や、希少価値のある「中ヨークシャー」「パークシャー」の精液を利用した純粋豚や、「ランドレース」「大ヨークシャー」「デュロック」等を使った三元豚を作出するための種畜を確保して、信州の特徴を活かした畜産物の生産が進み、こだわりのある畜産農家の支援をすることで、信州ブランドの一翼を担うことができる。					
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種畜を計画的に生産するための継代育種計画の策定と、交配、受胎管理、及び分娩管理</li> <li>・種畜生産のための敷き料管理、飼料給与などの飼養管理</li> <li>・生産される精液性状の確認と凍結精液の生産、保管、販売</li> <li>・飼育舎の保守点検と衛生管理など</li> </ul>					

  

事業コスト	区分		単位	22年度	23年度	24年度(当初)	23年度事業費の主な内訳
	最終予算額 (A)		千円	7,298	6,107	5,931	
	決算額 (B)		千円	7,298	5,888		
	B(H24はA)のうち一般財源		千円	0	0	0	
	概算人件費	従事する職員数	人	0.50	0.50	0.50	
	概算人件費 (C)		千円	4,159	4,129	4,129	
概算事業費 (B(H24はA) + C)		千円	11,457	10,017	10,060		

  

事業実績	成果指標・活動指標内容		単位	22年度	23年度	24年度(見込)	左記以外のH23年度実績
	牛の凍結精液生産供給(活)		本	1,925	1,665	2,800	
	豚の液状精液生産供給(活)		本	1,627	859	1,500	
	地域ブランドの数(活)		数	16	16	16	
	<効率指標(単位当たりコスト等)> 精液1本当り事業費		千円/本	3.2	4.0	2.3	

  

事業の成果	事業の目標(H23)			事業成果・評価			評価区分
	肉用黒毛和種の種雄牛係留6頭 黒毛和種精液配布:3000本 種豚継代育種の品種:6種 豚精液の配布:2000本			<ul style="list-style-type: none"> <li>・6頭の種雄牛を係留し、凍結精液の生産と配布1665本ができた。</li> <li>・海外導入純粋豚6種の継代維持ができ、精液採取と859本配布ができた。</li> <li>・畜産試験場係留の種畜の紹介パンフレットを農家向けに作成し需要が喚起できた。</li> </ul>			b 期待どおり

  

事業の課題	区分		判定・説明			
	事業ニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種雄牛造成事業は終了し新規牛がいない中で、現在活躍している種雄牛の精液販売を確実に進めていくことが必要。</li> <li>・地域色の強いプライベートブランドづくりでは県がその役割を担っており精液供給の必要がある。</li> <li>・継代維持や精液供給事業は、施設が完備されている必要があり現状の施設等の有効活用からも効果的な事業展開である。</li> </ul>
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	事業改善(有効性・効率性)の余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		

  

総合分析等	総合分析 (今後の課題、取組方針等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒毛和種の県有種雄牛では「栄寿」に根強い人気があるので、十分に精液供給を実施していく。</li> <li>・養豚は中小規模で経営ができる、こだわりある品種を利用した生産を精液供給で支援する体制が必要である。</li> <li>・継代維持は近親交配が強まるので、国の試験場などと協力し新たな遺伝子の確保も検討する必要がある。</li> </ul>					
	特記事項						